中南地域もも高品質生産推進方向

（目標年次：平成37年産）

平成28年3月15日
中南地域もも生産推進連絡会議

中南地域もも生産推進連絡会議参集機関

つがる弘前農業協同組合桃部会
津軽みらい農業協同組合もも生産協議会
つがる弘前農業協同組合販売部生産園芸課
津軽みらい農業協同組合青果部野菜課、営農部営農課、南地区販売センター、黒石基幹グリーンセンター、平賀基幹グリーンセンター、尾上基幹グリーンセンター、田舎館基幹グリーンセンター、
相馬村農業協同組合
弘前市農林部りんご課
黒石市農林商工部農林課
平川市経済部農林課
藤崎町農政課
大鰐町農林課
田舎館村産業課
西目屋村産業課
全国農業協同組合連合会青森県本部
地方独立行政法人青森県産業技術センターりんご研究所
青森県農林水産部農林水産政策課
青森県農林水産部総合販売戦略課
青森県農林水産部りんご果樹課
中南地域県民局地域農林水産部

平成28年3月15日開催した平成28年産第１回中南地域もも生産推進連絡会議にて「中南地域もも高品質生産推進方向」が了承される。

中南地域もも高品質生産推進方向

（目標年次：平成37年産）

平成２８年３月１５日

中南地域もも生産推進連絡会議

１　これまでの取り組みと市場評価

中南地域のももは、生産者組織、農協、市町村等関係機関との連携のもと、りんご農家の経営安定・向上を図る有望品目として位置づけ、生産を推進してきた。

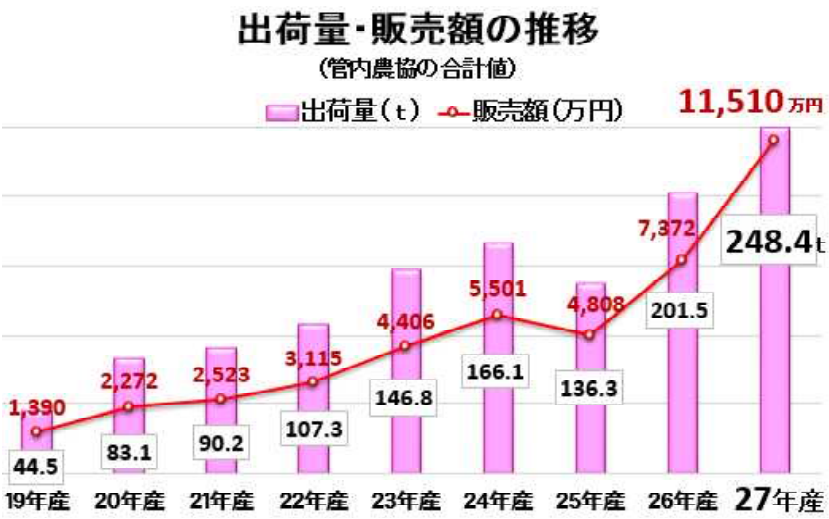
これまでの取り組みにより、管内農協における生産者、栽培面積、生産量は年々増加し、平成２７年産の出荷量は２４０ｔを越え、販売額は１億円を突破した。

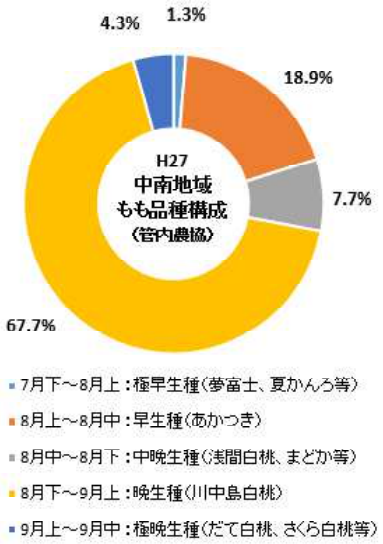
また、市場からは８月～９月の期間を通じてさらなる出荷を求められるなど、市場評価も高まってきている。

しかし、現状の生産量、品種構成では市場側の要望に充分な対応ができない状況となっている。また、各農協では取扱量の増加により、選果作業が過密になるなどの課題が顕在化してきた。

このため、生産者組織、管内農協、市町村等との情報共有・連携を常に図りながら、８月～９月の高品質もも産地として、市場ニーズへ的確に対応することを通じて、産地力・ブランド力を一歩一歩高めていく。

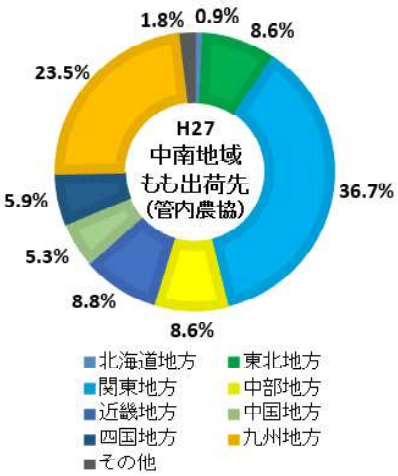
今後、ももを当地域の果樹経営において、りんごに次ぐ柱となる品目とするため、高品質果実の生産拡大と安定的な出荷を柱に、栽培面積の増加を図るとともに、川中島白桃を主力としたバランスのとれた品種構成の実現を目指していく必要がある。





一方、県内では、ここ数年の取り組みにより、知名度の向上が顕著となってきており、当地域を代表する果物のひとつとして今後も県民への情報発信に努めていく。

県外向けでは、関東、近畿、九州地方等に出荷して高品質なももとして高い評価を得ているが、この実績を基に今後とも「高品質」を売りにして、このほかの販売エリアへも着実に販路を広げていくこととする。さらに、海外販路も視野に入れ、輸出先や輸送方法等についての情報を収集し、検討していく。

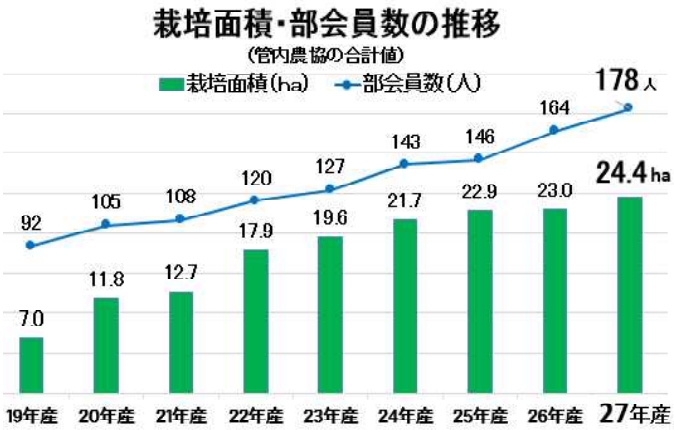


2　推進方向「産地力・ブランド力の向上」

（1）生産面：高品質果実の生産拡大とバランスのとれた品種構成

①　生産者、栽培面積の増加による生産量の拡大

管内生産者にももの生産状況、栽培のメリットを周知しながら、果樹経営支援対策事業等の活用による生産者、栽培面積の増加を図り、川中島白桃のほか新たな有望品種の生産拡大に取り組む。



【もも栽培のメリット】

ア　苗木を植えてから３～４年で果実が生産できる。

イ　晩生種の川中島白桃でも台風シーズン（9月～10月頃）前に収穫期を迎える。

ウ　りんごの作業用具が活用でき、栽培管理方法が似ている。

エ　りんごより着色管理作業、収穫作業の負担が少ない。

②　8月～9月の安定出荷と収穫・集出荷作業の集中緩和向けた品種構成の推進

市場ニーズへの対応並びに収穫・集出荷作業の円滑化を図るため、川中島白桃の収穫前後に収穫できる有望な中晩生種、極晩生種の作付け推進に向け、展示ほを設

置して生育状況、果実品質等の品種特性を調査するとともに、現地検討会等で生産者への品種特性の周知に取り組む。

③　生産者の栽培技術の向上による高品質果実の生産拡大

今後の生産拡大には、これまでの取り組みにより定着してきている高品質果実の評価を維持し、中南地域のもも＝「高品質」というブランドイメージをさらに確固たるものにしていくことが最優先の課題となっている。

このため、１６玉（300g程度）以上の大きさで糖度の高い果実の生産拡大に向けて、生育状況や気象に合わせて栽培管理作業（剪定、摘蕾、摘花、摘果、着色管理、収穫）のポイント毎に現地講習会等を開催し、早期適正着果をはじめとした適期作業の励行とせん孔細菌病等病害虫の適正防除を徹底するとともに、果実糖度等の選果データを生産者にフィードバックすることにより、生産者個々の栽培技術の改善を図る。また、若木の凍害対策として、断熱資材を利用した凍害防止展示ほを設置し、凍害防止技術の普及に取り組む。

（２）販売面：美味しい果実の安定的な出荷による市場評価の向上

①　高品質果実の安定出荷

高品質果実としてのブランド力を磨くため、生産者に果実の大小、着色、障害果の選別等、厳格な山選果が販売面で重要となることを周知し、光センサー選果機による糖度選別等で果実品質、食味にバラツキのない商品の安定出荷に取り組み、着実に販路を広げる。

また、有利販売に向けて出荷市場との連携を深めるため、出荷市場へ生育状況等の産地の情報を提供・発信していく。

②　冷蔵施設を活用した集出荷作業の円滑化

出荷量が年々増加している川中島白桃の集出荷作業の集中緩和に向け、りんご用等の現有冷蔵施設をどのように有効活用していくか、りんご生産地の条件を生かしたノウハウを構築するため、独立行政法人青森県産業技術センターりんご研究所と連携して選果前果実の一時冷蔵保管試験等に取り組む。

（３）中南地域産もものさらなる付加価値向上

①　ブランドの牽引役となる高糖度果実の商品化

出荷市場や消費者に当地域産もの品質の高さを周知するため､特に糖度の高く、着色等外観が優れた果実についてはプレミアムな高糖度商品として販売するなど、商品力向上による魅力ある販売戦略を検討する。

②　地元企業と連携したスイーツ等加工品の商品化

付加価値の高い加工品づくりに向けて、ＡＢＣ（あおもり食品ビジネスチャレンジ）相談会に参加するなど、地元企業と連携したスイーツ等加工品の商品化に取り組み、収益力の向上やもも産地としてのイメージアップにつなげる。

③　産地直売所等での贈答用、家庭用商品の販売

当地域産もの県内消費者の認知度を高めるため、産地直売所等において贈答用や家庭用の商品の販売拡大に取り組む。

④　広報媒体等を活用した中南地域産もの情報発信

県内外における当地域産もの認知度アップや生産者を増やしていくため、生産・販売状況や栽培講習会等の関連する行事等の情報を積極的に報道機関へ発信していく。

３　産地力・ブランド力向上にあたっての中長期的課題

（１）りんご栽培体系の中でのもも栽培の最適化

もも産地としての将来を展望する上で、「りんご＋もも」の複合経営している管内生産者の事例を基に、りんご栽培の中での効率的なもも栽培の割合等、適切な導入方法を検討していく必要がある。

（２）産地強化に向けた担い手の育成

産地全体として知識、技術レベルの底上げを図っていくため、特に新規生産者の生産者組織への加入促進や栽培管理講習会等へ参加を働きかけるなどして、担い手育成を重点的に推進していく必要がある。

（３）生産拡大に対応した集出荷体制の充実

ももの出荷量の増大に対応するため、りんごを含めて効率的に現有集出荷施設が利用できる体制や運用システムを検討していく必要がある。

（４）中南地域もも高品質生産の目標（目標年次：平成37年産）

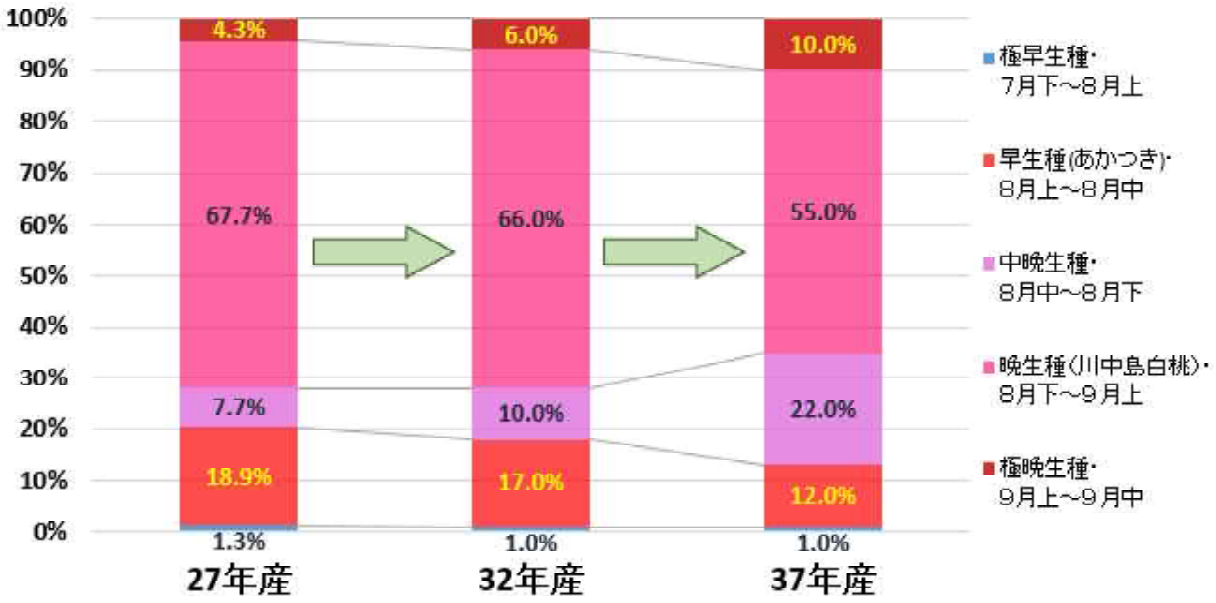
① 栽培面積の拡大による出荷量の増加、高品質ももの安定出荷で平均単価を高めながら販売額の増大を図り、産地力・ブランド力を強化していく。

（管内農協の合計値）

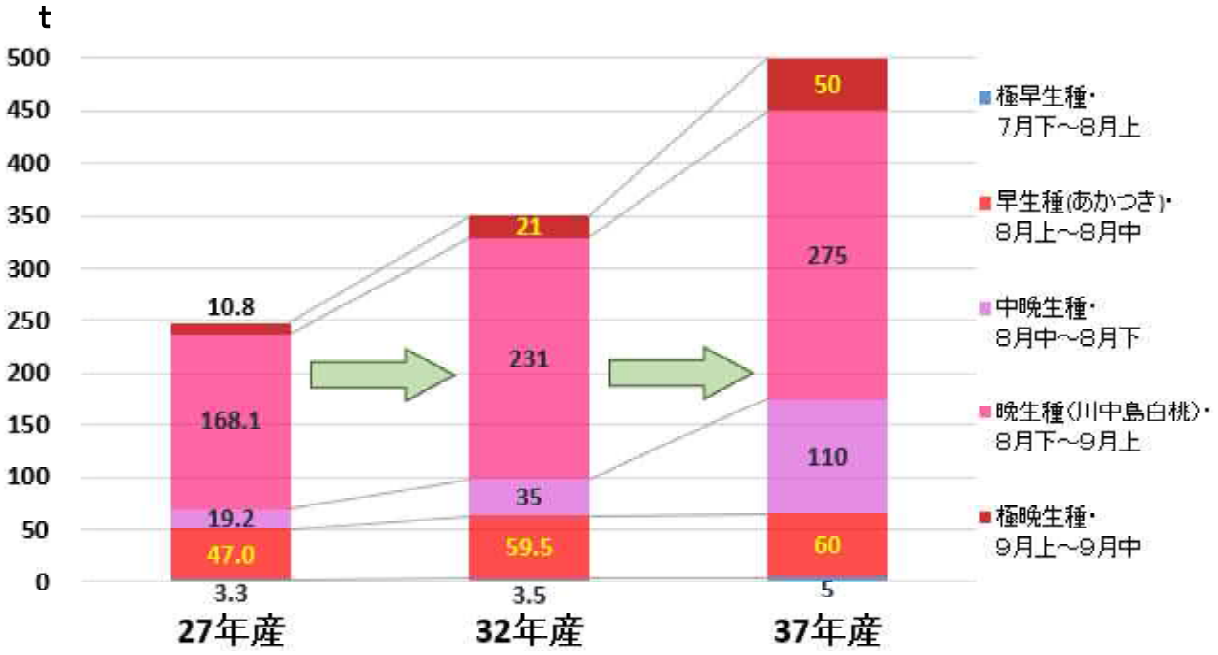
項　目	平成27年産	平成32年産	平成37年産
栽培面積	24.4 ha	30.0 ha	40.0 ha
出荷量	248.4 t	350.0 t	500.0 t
平均単価	463 円/kg	500 円/kg	500 円/kg
販売額	11,510 万円	17,500 万円	25,000 万円

② 8月～9月の安定出荷と収穫・集出荷作業の集中緩和に向けた品種構成とするため、川中島白桃の収穫前後に収穫できる中晩生種、極晩生種の作付けを推進する。

ア 管内農協における品種の時期別出荷割合の推移



イ　管内農協における品種の時期別出荷量の推移



③　ももは苗木を植えてから７～９年で果実生産のピークを迎えるため、目標年次を１０年後の平成３７年産としている。

④　今後の生産・販売動向等、中南地域のももを巡る環境の変化に対応し、適切なタイミングで目標に修正を加えていく。